

WADAテスト中の対応事項

本研究に伴う対応事項について、漏れなくご対応ください。

- 通常のWADAテストを実施するために大腿動脈にイントロデューサーシースを挿入する。
(その他、通常のWADAテストに必要な準備を実施する。)
- 両側の頸静脈にイントロデューサーシースを挿入する。
- ヘパリンを100 IU/kg(最大5000IU)を静注(IV)する。
- 通常のWADAテストを実施するため、大腿動脈の左右いずれかからガイディングカテーテルを左右いずれかの頸動脈まで送達させる。
- 頸静脈に挿入したイントロデューサーシースを介して、マイクロカテーテルを目的血管まで送達させる。
- **試験機器を挿入する。**
※試験機器を**最低1本**留置する必要あり→**留置できない場合は中止**
- **X線透視(3D-RA)によって、試験機器の電極位置を確認する**
- **頭皮電極と試験機器を同一の脳波測定装置(既認証品)に接続し、脳波測定を開始する。**
- **閉眼下で患者に10秒間を計数させ、頭皮電極と血管内脳波の脳波平均振幅を計測する。この際、頭皮電極と血管内脳波の類似性評価を実施する。**
- **患者に目の開閉をさせ、脳波変化の有無を確認する。**
- 通常のWADAテストを開始する。
このときプロポフォール投与前後での脳波変化を確認する。
- **WADAテスト終了後、脳波測定を終了する。**
- **X線透視(3D-RA)によって、試験機器の電極位置を確認する。**
- **試験機器およびマイクロカテーテルを抜去する。**
- 活性化凝固時間(ACT)が150以上のとき、プロタミンでのヘパリンリバースを考慮する。
- イントロデューサーシースを抜去し、通常の手法にて術式を終了する。

※患者の安全のため、**試験機器の留置時間は1時間程度**を目安としてください。

※下記の場合は**中止**となりますので、事象発生時にはご判断をお願いいたします。

**WADAテスト及び試験機器使用に伴う深刻な有害事象が発生した場合(出血、血管損傷等)
手技の安全な施行が確実にならない場合**